菜の花エコウォーキング

ゴールに向かってウォーキング

最近では印旛沼の水質は毎年全国ワーストワンを保持し続けています。この記録を脱し恵みの沼を復活しようと千葉県の各行政担当部署、流域 15 市町村、企業、市民活動団体が協力して平成 19 年に「印旛沼流域連携プログラム」を立ち上げました。

この思いを八千代市民と共有することを目的として八千代オイコスでは同年から「印旛沼流域連携プログラム事業」として毎年春と秋に「花輪川～桑納川エコウォーキング」を開催しています。8 年目に当たる今年も平成 27 年 4 月 4 日（土）に行いました。

前日まで小雨、天気予報も雨模様でしたが、少し肌寒さはありますが、薄日がさす天気となりました。それでも「広報やちよ」をご覧になった市民の皆様 18 名が八千代緑が丘駅モニュメント広場にお集まりいただきました。

緑が丘住宅地を通り、東葉高速鉄道操車場脇の水路の自噴水を見学しながら花輪橋へ。花輪橋から花輪川という名の小川になります。菜の花の開花時期が天候により毎年異なり、心配されますが、運良く今年はちょうど満開となり、川は黄色の絨毯で覆われました。その中をカルガモの親子が遊泳する風景とも出会うことが出来ました。

八千代緑が丘から花輪川～貞福寺～桑納川を経由し初参加の方々も多く、充実した自然観察会とエコウォーキングでした。散策の後、花輪川土橋にてご近所の高秀牧場から毎回ご提供いただいている搾りたての牛乳と暖かい甘酒で楽しい会話が弾む春の一日を楽しみました。（小原）

集まったゴミ

米作り体験教室

今年も神久保の小さな田圃で、市民の家族を交えて田起こしから収穫、餅つき会を含めた米づくり体験教室を開催しました。

一般市民からの公募を計画しましたが、昨年参加されたご家族全員から本年も参加したいとの要望があり、昨年同様の 6 家族にご参加いただきました。

田起こしは 4 月 19 日(日)、シロカキは 4 月 26 日(日)、田植えは 5 月 6 日(振休)に行いました。（小原）

蛙がいたよ！

2 回目の田植えを終えて

ゴールデンウィーク最後の日、今日はいよいよ田植えの日です。家族皆で楽しみにしていた（自分が一番楽しみにしていたかも）イベントです。作業するにはいい天気で環境もばっちりです。田植えは昨年に続き 2 回目ということもあり、少しは要領を得ていましたが、実際に苗を植え付けようとすると、浅いところ、深いところがあり、それを修正しながら植え付けていくところは人生さながらでした。

普段、家庭菜園で乾いた土はいじっているのですが、泥の魔力には童心に帰る楽しいひと時でした。

また、子供たちは鬼教官！？の下、足の運びから田植えの基本を叩き込まれ、最後には大人顔負けの腕前まで育っていく子供の成長力には驚かされました。子供たちは楽しみながらも真剣なまなざしで取り組んでいました。そんなこんなで、子供も大人も泥にまみれて楽しい時間を共有でき、今年も良い田植えができました。立派なコメに成長しろよ！　（津田　隆敏）

お米作りに参加しています

オイコスのお米作りに、家族で 2 年連続で参加しています。子供は勿論、私も田んぼに入るのは初めてなので、毎回新鮮で、とても楽しい経験をさせて頂いています。

参加のきっかけは、日本人の主食であるお米について、子供達にもっと深く知って欲しい、という食育の観点からでした。

実際は、田んぼでの泥遊びや蛙取りの方に夢中で、残念ながら戦力にはなっていない状況です。　但し、そのような遊びもまた、貴重な経験だと思っています。

このような体験の機会を頂き、オイコスのスタッフの方々には大変感謝しています。　まだ田植えが終わったばかりですが、秋の収穫、そしてお餅つきを、今からとても楽しみにしています。

（加納　雅行）

編集後記

総会が無事終了し、新たな気持ちで新年度がスターとしました。8 回続けてきた「川の学校」を夏に開催します。継続の中にも新たなチャレンジをして、進化を続けています。

（ＴＡＮＡ＝Ｊ）

発行責任者：川瀬　純一
事務局＆問合せ：小原　　翔
☎：047-450-4663
mail：info@yachiyo-oikos.jp

～～よみがえれ花輪川～～

八千代オイコス かわら版

第 29 号

ナシ

平成 27 年 6 月 25 日発行
NPO 法人八千代オイコス
http://www.yachiyo-oikos.jp/

印旛沼のあれこれ　**第 13 話 「いんば沼に憩い、慕う歌人、文人」**

北印旛沼

印旛沼を訪れた文人には、**水野葉舟、田山花袋、北原白秋、若山牧水**などがいる。

水野葉舟は明治 39 年に国木田独歩が主催する雑誌「新古文林」の記事取材のため訪れ、後に三里塚に移り住むようになった。葉舟は、初期の作品においては、印旛沼を「どんよりしたさびしい色」などと暗く描くが、一方では親しみを感じていた。そして、大正 13 年に三里塚に移住し、沼辺に友人が出来ると、さらに親しみを深くしていった。

田山花袋は大正 7 年に六合村（現印西市）に住む泉斜汀（泉鏡花の弟）を訪ね、後に小説や随筆で印旛沼を紹介している。花袋は、印旛沼について「錆びた沼」と云う表現を使うが、これは美の表現であった。また、丘陵の上を歩いて、ところどころ木立の間から見える印旛沼を美しいと記している。これは自然主義作家らしい、陰影のある表現と理解している。花袋は印旛沼を美しい沼と感じていたのである。

北原白秋は本埜村（現印西市）に住む歌人　**＊吉植庄亮＊**と交流があり、大正 12 年に庄亮の家を訪ねている。白秋は印旛沼の歌を多く詠んだ。

若山牧水は自宅と発行所を兼ねた住居を建てる資金作りのため、全国を回り、揮豪会（きごうかい）を行っているが、その会場として大正 14 年に印西、佐倉に立ち寄っている。

これは、印西と佐倉に牧水を慕う歌人がいたからであり、そのことから印旛沼周辺に歌人が何人もいて、文芸活動が盛んであった事が察せられる。また昭和の初期になるが、**与謝野晶子**が三里塚の花見に行く途中に成田線（松崎駅？）の車窓から詠んだ歌がある。

「下総の印旛の沼に添ふ駅へ汽車の入る時ちるさくらかな」

このような印旛沼文化を生み出した根幹にあるエネルギーは、印旛沼と云う水上交通に恵まれた地理的条件と、緑豊かな自然と水が織りなす景観と云う遺産ではないでしょうか。

多くの人が印旛沼文化を語り、認識が深まって行くことを期待したいと思います。（田邉）

＊吉植庄亮（よしうえ　しょうりょう）―印旛郡出身、１８８４年生～１９５８年没
大正・昭和期の歌人、政治家、元衆院議員、印旛沼開墾事業に着手、歌集「開墾」他多数発行。

資料：（財）印旛沼環境基金発行「いんば　第 34 号」より抜粋　引用

川の活動を思う

設立１５年目のスタートを切って、第１５回八千代オイコス総会が４月１２日に開催されました。

私たちの基本事業計画はブレナイ姿勢で環境保全をテーマに活動続けていますが「花輪川」の水質浄化活動が基本柱のトップ項目であることは言うまでもありません。
しかし溜池の浄化と違って、川は常に流れています。私たちに出来る川の浄化とは如何なる活動が課せられていることでしょうか。

６月の声を聞くと、太公望は待ちきれずに川へ出かけアユ釣りを楽しみます。アユは水質のきれいな川にしか遡上しません。かつて、東京都の西の境界を流れる首都圏を象徴する河川である「多摩川」は水質汚染により魚の一匹住めない死の川と言われた時代がありました。日本の高度成長期に発生した四大公害病と言われたものに[水俣病（チッソ株）、新潟水俣病（昭和電工）、イタイイタイ病（上岡鉱山）、四日市ぜんそく]がありましたが、この内三件の公害が川を通して海にまで至った汚染物質が人の身体を蝕みました。これらの公害の原因はすべて工場排水によってもたらされたものでした。しかし多摩川の汚染は当時の流域の高度開発による人口急膨張により、家庭からの洗剤排水、し尿処理場の増加によるものでした。

今その多摩川に、この時期毎年５百万匹のアユの遡上が見られるとの事です。

この事は、１９７０年が公害元年というべき年に始まり河川法の改定等を経て、河川管理が「環境保全」へとシフトし環境改善の努力をもっての事でした。

先般花輪川を取り巻く工場が多数ある中で、ある食品加工会社の「水処理施設」を見学する機会を得ました。公害対策の一環としての高度な処理が行われる現場を見て処理後の水が安全値をクリアして花輪川に放水される事が確認され見学者一同、普段の企業努力を改めて知りました。これを機に私たちの水に関する関心を一層高め地域ぐるみの活動を続けていかなければとの思いを深くしました。（代表　川瀬）

平成27年度活動予定表

月	日	曜日	項目
4	4	土	菜の花エコウォーキング
	10.11	金.土	イオンデー
	11	土	オイコス理事会
	12	日	花輪川作業・総会
	19	土	田起こし（神久保田圃）
	26	祭	シロカキ（神久保田圃）
5	6	振休	田植（神久保田圃）
	10	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）
	11	月	イオンデー
	23	土	市民活動サポートセンター事業報告会
6	7	日	田の草刈り
	11	水	イオンデー
	13	土	オイコス理事会
	14	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）
	28	日	ほたるの里バス見学会
	下旬		川の学校チラシ配布
7	5	日	田の草取り
	11	金	イオンデー
	12	土	オイコス理事会（川の学校申込締切）
	14	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）
	18	土	川の学校参加申込み締め切り
	25	土	ホタル調査（合同）
8	2	日	ホタル観察会（石神谷津）
	8	土	川の学校第１日目
	9	日	川の学校第２日目
	11	火	イオンデー
	下旬		ホタル調査終了

月	日	曜日	項目
9	11	金	イオンデー
	12	土	稲刈り、米ハザ架け・オイコス理事会
	13	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）
	23	祭	エコメッセ 27
	28（日）～		米脱穀、収穫
10	10	土	お米モミすり（配布）
	11	日	花輪川作業・定例会（第2日曜）・イオンデー
	24	土	秋の花輪川エコウォーキング
11	3	日	サポセン祭り参加（日程未定）
	7	土	オイコス理事会
	8	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）
	11	火	イオンデー
12	11	木	イオンデー
	12	土	忘年会
	13	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）
	20	日	餅つき会
1	9	土	オイコス理事会
	10	日	花輪川作業・定例会（第2日曜）イオンデー
	11	祭	印旛沼環境基金助成金活動報告会
	22	金	オイコス理事会
2	11	祭	イオンデー
	13	土	オイコス理事会
	14	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）
3	11	祭	イオンデー
	12	土	オイコス理事会
	13	日	花輪川作業・定例会（第２日曜）

「第３回印旛沼流域再生大賞」記念講演（要旨）

八千代オイコス　代表理事川瀬純一

此の度の「第３回印旛沼流域再生大賞」を私ども八千代オイコスが受賞するという栄誉を頂いた事に、改めて心より感謝申し上げます。

私どもの活動が大賞を頂けるほど特別な活動をやってきたとは思えませんが地道な平素の活動が認めて頂けた事が有難く、活動冥利に尽きる次第です。

平成１３年１２月にオイコスを設立し、昨年１２月で１４年が経ちました。この間一貫して我々は「印旛沼の再生は花輪川から」を目標にブレナイ活動を中心にやって参りました。私どもの主な活動の場である花輪川は八千代市北西部に位置する僅か数キロの都市型河川ですが、この流れはやがて印旛沼へと流れ出る最上流部の河川です。

東葉高速鉄道「八千代緑が丘駅」北部に自噴する地下水の流れ出しに始まり、工場排水と共に約２キロの流れとなって、桑納川へ注ぐ花輪川は上流１ｋｍは３面コンクリートと川沿いをフェンスで囲われ、残りの約１ｋｍを片面鋼矢板、片面コンクリートブロックで護岸されての流れとなっています。

しかしこの花輪川の改良以前の姿は、現状からは想像も出来ない小さな川で人が跨いで渡れる程のものでした。

時代の流れはどこの市町村にも宅地化の波が押し寄せ、八千代市においても市内北部の開発が東葉高速線を中心に昭和５８年頃より活発になりました。

その少し前お隣り船橋市東部の宅地開発が早く進み、台風となれば大量の雨水が市街地より桑納川に流入し、桑納川―新川―印旛沼の水系である桑納川流域はたちまち水害の被害に及ぶのでした。

元々この流域は古くからこうした増水による田畑の冠水被害には悩まされていて、昭和２７年に「桑納川沿岸土地改良地区組合」が結成されました。

ようやく桑納川拡張工事に着手しましたが、当時は土木機械も無く手掘り工事で進めたとの事でした。この時の初代組合長は高秀牧場を経営されていた高橋秀夫さんという方で、色々話を伺いましたが人力ではとても能率が上がらず、何とか一級河川への昇格をもって国・県レベルの改良工事を進めたいと大変な尽力を重ねた結果、昭和６１年４月遂に一級河川昇格の認定を受ける事になりました。これを受けて桑納川基盤整備事業は八千代市から千葉県の管轄として流域の改修工事は急ピッチで進められました。

同時に花輪川流域の土地改良も着手され昭和５９年東葉高速鉄道の工事着工と相まって、花輪川の改修工事もスタートしました。小川だった花輪川の周囲の田んぼの区画整理と併せ「準用河川花輪川改修事業」として昭和６２年より工事がスタートしました。

工事はかなりの大規模なものとなり、それまでの花輪川は一気に幅も広げられ川底も深く掘り下げられました。複雑に流れていた川筋も一直線に桑納川に流れを通しました。折しも当時国の進める事業に、＜ふるさとの川づくりモデル事業＞が提唱されて、これからの河川整備は自然型・親水型の川づくりを指向しなさいとの指導だったそうです。

八千代市も平成元年これを受け、平成４年に桑納川―新川―印旛沼放水計画事業として「水辺空間整備事業」立ち上げ、平成５年「新川―桑納川ふるさと川モデル事業」を認定することになりました。この事から市内の川に初めて親水目的の階段が設置され、川の堤防は片面遊歩道として施工されました。

しかし、その後行政は此の施設の有効活用に全く取り組みが無く、八千代オイコスはその後八千代市とのアダプト（里親）制度に応募し契約後活動の拠点として今日に至ります。

オイコスの主な事業は

① 地域の里山・自然保全を図るための水質浄化事業
② 地域環境の保全を図るための環境意識調査・評価事業
③ 自然環境に関する意識開発のための教育支援事業
④ 街づくり活動に関わる行政、及び諸団体との協同及びネットワーク構築事業

等々有りますがこれらの事業の中で年間を通して花輪川の環境美化・生物多様性への挑戦、夏の暑いさなかの側道の雑草刈に汗をかき、冬の寒さの中での川の清掃、粗朶を作って川岸の補修作業と苦労してきた我々の仲間にとって今回の受賞は大きな励みを与えて頂きました。

2014 年度「川の学校」から

また教育事業の一環で夏休みに小学生の子ども達を対象に開催している「川の学校」は花輪川を通して生き物さがしや、川遊びの後「水について」、「印旛沼の役割について」、「人と環境について」、等々体験を通して学んでもらっています。この学校も８回も継続しています。

八千代市の水道は市内３０数か所の井戸からの汲み上げ６０％、北千葉広域企業より江戸川の水４０％でまかなっていて、印旛沼からの取水は無く子ども達の印旛沼への思いは案外生活体感としては希薄な面があります。印旛沼流域に飲料水・工業用水・農業用水にと貴重な水がめとなっていることを学びます。昨年、一昨年には印旛沼での船での勉強も行いました。

水の汚れは全国ワースト１の事は知られていますが、実際船上から見た水が意外にきれいだったとの評価もありました。
一人一人がはるか上流の花輪川をきれいにすることが大切な事と二日間を通して学んで終わります。

NHK　BS 放送の朝の番組「ニッポンの里山」を毎日欠かさず見ております。僅か１０分の番組ですが全国の美しい里山が紹介されます。今ある美しい里山はその地元に生活している人々の絶え間ない日々の苦労の活動があっての結果であると教えられます。手を抜けばアッという間に荒廃の地と化す里山は人の手で地道に保全活動を継続しなければなりません。

オイコス１４年間を通じ、平成１６年５月に社団法人・日本河川協会より、「花輪川の美化・環境保全活動」、平成２４年１２月には環境省水・大気環境局長より「水・土壌環境の保全活動に貢献あり」との表彰状を頂き、今回の大賞を併せて３回目の受賞となりました。

オイコスメンバー一同これを励みに今後尚一層のたゆまぬ活動を継続して参りたいと思います。